平成 23 年度入学式式辞

本日ここに集われた学部・大学院・特別専攻科への入学生の皆さんおめでとうございます。特に今年度は、観光学研究科修士課程の第 1 期生を迎え、和歌山大学の歴史に新たな頁を加える年度でもあります。ご来賓の本学後援会の奥村会長はじめ副会長の皆さん、および列席の本学理事・副学長、学部長等とともに心からお祝いしたいと思います。

しかしすべての入学生が集っているわけではありません。一人の教育学研究科入学予定者は、東日本大震災の被災地・宮城県の中学校で教員をされ、ご自身も被災者でありながら、本日も避難所となった勤務校で被災者支援にあたっておられます。

本日ここに集っている皆さんのように大学進学が決定していながら、大震災で亡くなった方、ご自身・ご家族が被災したため入学が困難になっている方、大学自体が被災したため入学式はもとより講義等の開講の予定が立たない大学もあることなどを、我々は忘れてはなりません。

入学生の皆さんは、自分が育ってきた18年余を振り返り、その間、この社会はどのようなものだったと思われているでしょうか。皆さん自身は受験等今日を迎えるために多大なエネルギーを費やされたことでしょう。皆さ

んの努力だけでなく、ご家族の支援、そしてなによりも自然の恵みがあって、今日があることは言うまでもありません。

学部入学生のほとんどは 1992 年生まれです。皆さんが育ってきた時間は、しばしば「失われた 20 年」と表現されます。バブルの崩壊、日本経済、政治、教育改革は迷走の中にありました。ご家族にあっては、経済・企業環境の変化の中で御苦労のあった方も少なくないと思われます。皆さん自身もいわゆる「ゆとり教育論争」と表現される教育改革の迷走の中での「学校生活」であったと思います。

しかし、私は、皆さんが育ってきた時間は、皆さんにとって、けっして「失われた時間」ではなく、「「未来への萌芽（きざし）」を生み出してきた時間だと思います。大量生産、大量流通、大量消費への反省、画一化ではなく個性化を、過度な競争ではなく人々の絆と協同をなど、本当の意味での人間的な豊かさの模索の 20 年でもあったのです。

そして今我々が直面している震災は、これまでの豊かさ、その前提としての安全という人間の生存の基本を問い直し、これまでの新たな社会への「模索」ではなく、新しい社会を「創造」することへの決断を迫っています。

その意味では、皆さんのように過去の成功物語にとらわれない世代、「模索」の時代に育った世代こそ、過去を根本的に見直し、「未来の希望」を実現できる世代であると思います。

そうした期待をこめて、以下四つのことを伝えたいと思います。

第一は、まずは自分の人生の幸福とはなにかについて、深く考えて頂きたいと思いま

す。自分を考える、そしてなにが幸福なのかを考える、これを自分で考え、友人と語り合って頂きたいと思います。そして自分の幸福が、他者の幸福と通ずる生き方を確立して頂きたいと思います。

第二に、新たな環境の中での生活の不安、戸惑いについては、先輩、職員、教員にぜひ声をかけ相談してください。和歌山大学教員約 300 名と職員約 200 名、そして先輩学生は、皆さんの支援者です。誰に声をかけていいかわからないまま不安が大きくなった人は、後ほど紹介する宮西教授がいる保健管理センターを訪ねてください。和歌山大学の保健管理センターは、深い悩みを抱えた学生を支援してきた実績をもち、今広く注目されています。これは本日ご参加のご家族にもお伝えしておきたいことです。

第三は、和歌山大学における教育目的です。人間は本来個性的な存在です。自己の個性に気づき、それに誇りをもつことが大切であります。そして、自己の個性を意識してこそ、自己とは違う他者の個性を認め他者との共同が可能となるのです。こうした自己と他者を関係づけることのできる人間こそ、未来型であり、多様な文化、多様な歴史が交錯する世界の中で活躍できる国際型なのです。和歌山大学では、これを「人間になるための教育（教養教育 the art of being a human）」と表現し、その一環として本年度入学 1 年生より約 3 週間にわたりタイに派遣する「異文化・異世界体験学習プログラム」を実施します。

第四に、和歌山という地域で暮らし、地域と交流する喜び、地域に学ぶ価値を実感して頂きたいと思います。和歌山という地域は、さまざまな困難を越えて地域づくりをしている住民の格闘があります。和歌山大学教職員も、地域の方と苦悩を共有し、地域づ

くり、教育文化形成に学生とともに参加しています。この中で学生は、若者を暖かく育てようという人情あふれる多彩な人々と出会い、「日本語の通じる留学をしたようだ」というカルチャーショックも受けながら、成長しています。和歌山大学では、本年度から、和歌山の農山村の農林業等産業発展や地域づくりに教員・学生が参加し、研究し学ぶプロジェクト、「和歌山大学型グリーンイノベーション研究教育プロジェクト〈仮称〉」を始めます。

異文化・異世界体験学習プログラム、農山村体験プログラムに是非積極的にチャレンジしてください。

これらの学びと活動は、教員、職員、先輩学生、そして後援会というご家族の皆さんや元気なシニアの方々を含む同窓会、そして和歌山という地域、すなわちオール和歌山大学、オール和歌山が支えています。こうした学びと活動を和歌山大学で積み重ね、震災後の日本の創りなおしの担い手になって頂きたいと思います。

皆さん、和歌山大学への入学本当におめでとう。改めてお祝いの気持ちをお伝えし、和歌山大学を代表しての歓迎の挨拶といたします。

2011 年 4 月 5 日

国立大学法人和歌山大学

学長　山　本　健　慈